

平成26年白老町議会全員協議会会議録

平成26年 8月 6日(木曜日)

開 会 午前10時00分

閉 会 午前11時22分

○議事日程

1. 竹浦小学校の老朽化等に伴う移転について
-

○会議に付した事件

1. 竹浦小学校の老朽化等に伴う移転について
-

○出席委員(14名)

1番 氏家裕治君	2番 吉田和子君
3番 斎藤征信君	4番 大淵紀夫君
5番 松田謙吾君	7番 西田祐子君
8番 広地紀彰君	9番 吉谷一孝君
10番 小西秀延君	11番 山田和子君
12番 本間広朗君	13番 前田博之君
14番 及川保君	15番 山本浩平君

○欠席委員(なし)

○説明のため出席した者の職氏名

教 育 長	古 俣 博 之 君
教 育 課 長	高 尾 利 弘 君
企 画 担 当 課 長	高 橋 裕 明 君
教育課学校教育主査	小山内 淳 君

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	岡 村 幸 男 君
主 幹	本 間 弘 樹 君

◎開会の宣告

○議長（山本浩平君） ただいまより全員協議会を開会いたします。

（午前10時00分）

○議長（山本浩平君） 本日の全員協議会の案件は、竹浦小学校の老朽化等に伴う移転についてあります。それでは竹浦小学校の老朽化等に伴う移転について担当課からの説明を求めます。

古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 改めましておはようございます。本日は、このような機会をお忙しい中設けていただいて本当にありがとうございます。これまで旧竹浦中学校の跡地の活用につきまして、企画のほうを中心にしながら検討を重ねてきておりました。そういう中でこの竹浦小学校も老朽化が本当にひどい状況だということがありまして、その中で子供の安全性それから教育環境の整備を進めていかなければならないというような中で、この竹浦中学校の跡地利用とそれからこの竹浦小学校の老朽化の解消というようなことをあわせ持ちまして、町としては移転を結論として導き出したところでございます。そういう関係のこれまでの検討の経過並びに今後移転する場合の内容的な部分についてのご説明を申し上げたいと思いますので、さまざまな角度から検討をよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（山本浩平君） 高橋企画担当課長。

○総合行政局企画担当課長（高橋裕明君） それでは大きく2点ございますが、まず第1の中学校跡地活用の検討経過について企画が担当していますので私のほうから概要をご説明申し上げます。まず1ページ目でございますが、竹浦中学校跡地施設活用については、昨年8月くらいから12月くらいにかけて関係8課におきまして検討を重ねてきております。

主には3つの検討経過がございますが、まず第1に公的な活用についてということで検討がなされております。公的な活用と申しますのは町で教育施設、社会教育施設、商業・観光、福祉・医療、その関係の施設の活用ができないか、もしくは公的な機関で活用できないかということで、その転用の可能性の検討をいたしました。検討結果についてはいずれにしても転用が難しく費用もかかる。他の公的機関を誘致したとしてもかなりの年数を要するというような理由から、公的な活用の可能性は低いということで、公的な活用については整理されております。

続きましては、第2に民間活用についてはどうなのだろうかということで検討いたしました。民間活用については、主に広く活用を図るために募集要領というものを作成して、その趣旨ですとか条件、方針について整理し検討いたしました。また土地等の用途、活用の課題についても検討いたしました。その検討の結果につきまして募集要領案というものも策定いたしました。募集について問題は特になかったのですが、まず募集するにあたって不動産鑑定も必要だということ。それから用途的に検討するに当たりまして、かなり限定的な第二種中高層住居専用地域という用途なのですが、それで主に住居を活用ということになりますとなかなか事業化が難しいのではないかとということ。用途変更について北海道と協議をいたしました。使用道が確定されなければ用途変更の協

議は難しいということで、どっちつかずということの経過で用途変更もかなり難しいという結論に達しました。

3番目にその他の活用方法ということで、教育委員会としましても竹浦小学校の耐震化改築という課題がございまして、その経費積算ですとかというものを重ねた結果、竹浦中学校を改修したほうがよいのではないかとというような結論に達し学校施設としてそのまま活用するということが望ましいという判断に達したものでございます。

まとめでございますが、公的な施設整備については費用や利活用の点で困難であるということの判断から、公募による民間活用を進める予定で募集要項案の検討や都市計画の用途変更の協議を進めてまいりましたが、周囲の状況や民間の要素特定ができないことから用途変更は難しいとの結論に至ったため竹浦小学校の改修計画含めて検討した結果、老朽化が著しい竹浦小学校を移転することが望ましいとの検討結果でまとめております。以上、検討経過についての説明でございます。

○議長（山本浩平君） 高尾教育課長。

○教育課長（高尾利弘君） 私のほうからは、2ページ目の竹浦小学校の老朽化等にかかわる対応ということで説明をさせていただきます。

まず1つ目に対応方針ということで結論から申し上げますと、竹浦小学校の校舎等は、建設後48年が経過しております。耐震性能が非常に低いということと老朽化が進んでおりまして危険を伴う箇所も非常に顕著であるということから早急な対策が必要となっております。このことから子供たちの安全性の確保と教育環境の改善ということを図るため旧竹浦中学校への移転ということを方針としております。

2つ目に現況と課題ということで、(1)のまず竹浦小学校の校舎等の現況ということで、後でスライド見てもらいますけれどもちょっと口頭で説明させていただきます。①竹浦小学校の校舎棟は昭和41年建設で耐震2次診断の結果、耐震性能が最も低く、鉄筋コンクリート造とブロック造の併用であるということから相当の耐震改修の費用が必要であるとともに、老朽化に加えて狭隘で照度が低いという状況であることから、相当の大規模改修も必要であるということで捉えております。②としまして、特にひどいのが音楽室と教材室です。これは旧体育館で木造づくりとなっておりますが、これは昭和39年の建設で壁の崩落などか土台の腐食というものが出ておりまして非常に危険性が高いということで、大規模な改築が必要になるということになります。それと、③としまして、屋内体育館につきましては昭和63年の建設で耐震改修は新基準ということで必要性はないのですが、校舎との接続部分において屋上防水の経年劣化ということで現在は雨漏りが発生しています。また建設後比較的新しいのですが建設後25年間も経過しているため今後10年以内には大規模改修の必要があるという状況でございます。④としまして校舎等の全体面積、こちらは旧竹浦中学校と比較しますと227平方メートルで小さいということで、そのまま直したとしても全体的な狭さと暗さという部分は完全には改善できないということがございます。

(2)番目です。旧竹浦中学校校舎の現況でございますが、活用する場合の改修内容ということで捉えていただきたいと思います。①としまして中学校と小学校とでは普通教室が違いますので不足するということから特別教室を普通教室に改修ということなど、教室の移転等に伴う改修

が必要になります。②としまして東側の旧校舎、こちら職員室と普通教室があるところなのですが、こちらについては耐震診断をまだ行っておりませんので校舎等の耐震診断から耐震改修までが必要となってくるという状況です。③としまして屋内体育館については昭和 55 年の建設なのですが耐震診断をまだ行っていないこともございまして、こちらも耐震診断から耐震改修が必要であるとともに屋根等の一部改修をしたいということで考えております。それと④番目なのですが遊具等の整備だとか駐車場の確保という周辺環境整備が必要になってきます。中学校は当然に鉄棒だとかシーソーはないものですから、そちらの整備が必要になるということでございます。お金のほうは後で見てもらいます。

次に(3)移転に伴う留意点ということで、①としまして移転の時期は平成 27 年 7 月を予定しており 2 学期からの使用ということで考えております。②としまして移転後の竹浦小学校の校舎は用途廃止して解体し、屋内体育館については地域活動での利用を含めて今後も活用を図っていきたいということです。また解体した校舎跡や屋外運動場、グラウンドの部分は活用策を地域と共に検討していくということで地域づくりにもつなげていきたいということで考えております。③としまして統合の問題がありますが、統合については昨年度策定した白老町小学校適正配置計画に基づいて進めていくということで考えております。

次にページをめくっていただきまして別紙 1 となっておりますが、これは校舎・屋内体育館の改修費の比較でございます。一番上の表でございますが、①としまして竹浦小学校の改修費、こちらは移転しないでそのまま使うという場合の改修費の概算でございます。まず校舎部分については、校舎棟と音楽室・教材室というふうに分かれておりまして、建築年月日につきましては、校舎棟が 41 年の 12 月ということと音楽室につきましてはそれより前の 39 年 12 月ということになっております。校舎等につきましては第 2 次耐震診断をしており 0.36 という基準が出ています。通常 0.7 以上であれば耐震改修はしなくてもよろしいということにはなっておりますが、その数字は半分程度という数字でございます。事業費のほうですが、校舎棟につきましては合計 1 億 9,911 万 2,000 円となっております。内訳としては、校舎棟のほうの耐震改修、実施設計から大規模改修も含めてという形になっております。音楽室・教材室については実施設計と危険改築で実質 8,400 万円ほどかかるということで合計 1 億 9,911 万 2,000 円ということになっております。屋内体育館につきましては、昭和 63 年の建設ということで新耐震の基準となっておりますので耐震改修は必要ないということになっておりますが、先ほども申しましたように屋上の防水改修ということが必要になっておりますので 285 万 2,000 円かかるということでございます。この経費については竹浦小学校の体育館をそのまま使うということになると防水工事は、移転した場合でも竹浦中学校のほうでもしなければならないということで捉えております。それと②番目の竹浦中学校の改修費です。移転した場合の改修費ということでご理解いただきたい。校舎につきましては 1 階と 2 階がございまして、いずれも昭和 49 年の建設で耐震 2 次診断はしておりません。事業費の合計は 3,334 万円ということで、内容は耐震 2 次診断と教室の移転改修ということで、27 年度は耐震改修実施設計と 28 年度に耐震改修ができればいいのかなということで今策定しております。それで屋内運動場、体育館については未診断でこちらについてはちょっとお金がかかるのですが、耐震改修から大規模改

修、大規模改修といっても屋根等の部分なのですが、こちらを含めまして6,304万3,000円という事業費になっております。③改修費比較増減でございますが、総事業費で言いますと1億558万1,000円ということで竹浦小学校の金額が高いということになっておりまして、国庫負担金も3,819万9,000円と地方債が5,700万円差額、一般財源で1,038万2,000円が竹浦小学校の改修の場合のほうが多いということでございます。参考としまして解体費用を載せておりますけれども、竹浦小学校につきましては校舎・屋内体育館の部分を含めまして総額で6,963万2,000円という解体費でございます。竹浦中学校につきましては7,735万9,000円ということで解体費の状況は面積が広い分だけ竹浦中学校が高いという状況でございます。

続きまして別紙2のほうをご覧ください。こちらにつきましては地方債の借り入れにかかる公債費、ランニング的な部分なのですが公債費等の比較表でございます。まず試算するに当たりまして借り入れ条件といたしましては、竹浦小学校の危険改築の部分でございますが、借り入れの期間が10年間ということで据え置き期間なしでございます。借り入れ利率が1.5%ということで設定しまして、あと交付税なのですが充当率が90%となっております。交付税措置なのですが危険改築ということで交付税措置がありまして、元利償還金の3分の2が交付税措置されるということになっております。あと残りの竹浦小学校の28年度の借り入れ分と竹浦中学校の借り入れ分につきましては耐震改修・大規模改修の部分になるのですが、こちらの借り入れの期間としては10年間ということで考えていまして、利率も同様に1.5%、起債の充当率は75%で交付税措置は耐震改修・大規模改修について28年度以降はないということで考えております。まず①の竹浦小学校改修分の公債費でございます。こちらについては公債費の合計で平成28年度が532万3,000円、平成29年度1,085万4,000円、平成30年から37年度につきましては1,097万9,000円ということで、平成38年度553万3,000円となりますが2カ年分ありますので11年合わせまして1億954万2,000円という総額になっております。こちら交付税措置がありますので、実質負担額は11年間7,331万5,000円、年ベースで言いますと734万3,000円というのが平成28年から37年の負担額となります。それと②旧竹浦中学校の改修分の公債費でございますが、こちらにつきましては平成28年度が141万5,000円、平成29年度が474万3,000円、平成30年から平成37年度までが482万円となっております。平成38年度が337万2,000円ということで、合計で4,808万6,000円となっております。交付税措置がありませんので同額が実質負担額となりますけれども、11年間合計では4,808万6,000円となりまして、各年の最大でいうと平成30年から平成37年度では482万円を返済していくという形になります。最後に比較表をつけていますが1番最後の実質負担額のところの比較を見ていただきますと平成28年度については35万9,000円、平成29年度248万円、30年度から37年度につきましては252万9,000円、平成38年度については216万1,000円ということで公債費の実質負担額の合計では2,522万9,000円の差額があります。竹浦小学校のほうが公債費を多く払うということでございます。引き続きまして竹浦小学校の老朽化状況につきまして、スライドを用いて小山内主査のほうから説明をさせていただきます。

○議長（山本浩平君） 小山内学校教育主査。

○教育課学校教育主査（小山内淳君） 私のほうからスライドを使って竹浦小学校の老朽化した部

分についてご説明させていただきます。スクリーンのほうは見えそうですでしょうか。まず1枚目の写真なのですが竹浦小学校の全景となっています。左側から木造の元々は体育館で今は音楽室として使っています。昭和39年建築のものです。真ん中あたりにあるのが昭和41年建築の校舎棟になります。ちょっと見えづらいのですが1番奥側にあるのが昭和63年建築の体育館になります。左からだんだんと右側に映っていくような形で写真を構成してあります。まず、今音楽室で使われている部分の全景になります。こちらが音楽室のところから後で増築したと思われる形で今物品庫として使われている部分の老朽化の状況になります。赤く丸で囲った部分に束石があるのですが、こちらの方はちょっと写真で見えづらいのですが、寝転んでいるような状態なのですが現在土台のほうは腐っておりまして修繕のしようがない状態になっております。こちら外壁の部分なのですが、ちょっと写真でわかりづらいのですが、縦に木の棒が入っていると思うのですが、その左側と右側でもう段ずれしているような状態になっています。こちらも先ほどの写真と同じなのですが、もう束石が外れている状態です。右側のほうですが本当は左側の写真のように板張りになっていたのですがもう腐って過去に合板に張りかえている状態です。窓のほうも木の窓なのですがビニールが見えるかと思うのですが寒さ対策のため昔ながらの方向でやっているような状況になっております。こちらがその全景になっていましてほぼ一面にビニールが張ってある状態です。下のほうに鉄の杭でトラロープを回しているようなものが見えるのですが、こちらのほうは去年から上のほうのモルタルの壁にひびが入って落ちる状況になっておりますので、ちょっと危険なものですから生徒が立ち入らないようにこのように安全対策をしております。こちらの写真が登別側の外壁の状況です。ちょっと拡大写真が出ますけれど、あちこちひびが入っていつ落ちてくるかわからないような状況で、後で写真も出てくるのですが実際に反対側では壁のモルタルが落ちておりまして、業者さんでも手をつけるのは責任が持てないということで、僕らのほうで合板を張った写真も出てきます。こちらは先ほど同じ面のひび割れの状況です。こちらがそれぞれ苦小牧側と登別側の壁に支え的に設けられている木の構造の一部なのですが、もう腐って役目を果たしていない状況になっております。こちらが山側のほうの写真になっております。こちらのほうは今音楽室ではなくて教材室に使っているということもありまして、窓ガラス割れているのですが板等で応急処置している状況です。こちら外壁のひび割れの状況になります。これが山側の全景になります。こちらの写真でわかるとおり右側のほうが苦小牧側の壁の写真なのですが、左側の部分のほうの煙突が立っている方が山側の写真なのですが、下のほうの板がこちらの方はまだ残っておりまして、それでもかなり腐っているような状況です。煙突についてはもう既に使ってはおりません。こちらは土台が腐れている状況になります。こちらが先ほど言いました板張りの部分の腐っている状況になっております。中のほうにいっぱい物が窓口に見えると思うのですが、半分にして教材庫に使っている状況です。これがちょうど山側の苦小牧側の角の部分になるのですが、赤丸で囲っている部分の土台があるのですが腐り落ちてないような状況になっております。これは先ほど話していました苦小牧側の壁になるのですが、こちらのほうちょうどこの灯油タンクの右側の部分にちょっと色が変わっている部分があると思うのですが、この部分が去年に壁のモルタルが落ちまして、私たちが合板でふさいでいる部分です。これも先ほど登別側の写真のありました支えみたいなものなのですが、こちらのほうも腐

れ落ちていまして支えの状況にはなっておりません。こちらは今生徒が使っている音楽室の全景になっております。天井のほうは元々体育館でしたので、天井が高すぎるので天井は改修して照明器具も改修しております。ただ壁と床のほうは当時のままで、ちょこちょここと修繕しながら使っているような状況です。こちらがちょうど黒板側のほうの全景になります。右側のほうの白い壁については体育館として使われていた部分を半分に分けていますので当時新しく壁で新設した部分です。床については当時のまま使われています。今度は校舎棟のほうになります。校舎棟の山側の部分なのですが、ちょっと見えづらいのですが斜めに右から左に結構大き目のひびが入ってブロックが割れているような状況です。このままちょっと放って何もしないでおくとブロックなものですから冬に水を吸い込んで割れていく可能性があります。こちら山側の状況で、これから何枚か塗装の老朽化具合の写真になっていきます。こちらも塗装の部分が大部分剥がれてきておりますのでこのまま放っておくとブロックも割れてくる可能性があります。こちら教室の山側の部分なのですが、2階の部分が過去にひび割れして雨漏りしていてコーキングで補修している状況です。こちらは拡大写真です。ちょうど白く浮かんでいる部分が雨漏りしているようなところになっております。こちらが中の部分です。先ほどの体育館、音楽室のほうから新しい体育館のほうに向けて廊下のほうを写した感じです。ところどころに明るい部分があるのですが、廊下にちょっと窓が少ないものですから比較的くらい感じになっています。これは当然に昼間なので照明をつけていない状態の写真になっています。右側のほうが生徒の玄関になっております。こちらが生徒の玄関の部分の写真になっています。かなり下駄箱のほうもカラフルにはなっているのですが、色も剥げ落ちて靴を置く部分は結構ボロボロになってきている状況です。右上のほうに照明器具があるのですが、その黒くなっている部分は過去の雨漏りの時についたシミになっています。ただ今雨漏りのほうは自分たちで屋根をコーキングしに行っているのですけれども確実にとまっている状況かどうかまだ確認できていないものですから張りかえは行っておりません。これは普通教室の部分であります。普通教室の部分は昔から何も手を加えられていないような状況で、FFのストーブがついているのですが、こちらのほうは過去に普通の煙突ストーブからFFストーブに改修してありまして、窓の部分については昔鉄の窓がついていましたけれどアルミ窓に平成に入ってから改修しております。こちら普通教室の全景になっています。竹浦小学校のほう、先ほど高尾課長のほうから説明ありましており狭いという状況なのですが、実は図書室というものを独立で持っておりません。広さが足りなくて空き教室もないものですから手前にコンピュータ、パソコンが並んでいると思うのですが、コンピュータ教室と図書室を兼用で使っております。奥のほうに本が並んでいて手前の方にプリンターとかパソコンが並んでいるような写真になっています。以下、何枚かコンピュータ教室と図書室の兼用の部屋の写真になっております。こちらはどうしても先ほどの写真でコンピュータ教室のパソコンがずらっと並んでおりますので本を置くスペースが足りないということで、この右側のほうは先ほどの図書室とコンピュータ教室の兼用の教室になっているのですが、その前の廊下とか次の写真の階段のところ、直ぐに階段があるものですから階段を上り切ったところのスペースを利用して本を置いている状況になっております。こちらが給食配膳室の全景になっています。奥が給食配膳室で手前の右側は給湯室です。左側のほうは物品庫になっております。こちらのほうが家庭科

室の全景になっております。家庭科教室のほうも建築年数が古いものですから、ことしも排水関係の配管が腐って途中から水が漏れてきている状況で、配水関係は鉄を使っているものですから今後このようなことが起きる可能性があると思っております。これは竹浦小学校の中では割と新しい昭和 63 年に建築した体育館の部分なのですが、体育館は一般開放も行っておりまして玄関があるのですが、そこを行ったところにホールがありまして、先ほど高尾課長のほうからありました防水改修しなければならないという部分で、もう防水のほうがかいていないものですからホールの部分であちらこちら雨漏りしている状況の写真です。この丸く赤く囲った部分が過去の雨漏りで、ビス関係がもうさびてきて黒くなっているのと天井の材料がもうシミで黒くなってきている状況の写真です。こちらちょっと右側の部分になっています。当然に壁とかも全部雨漏りで濡れているため若干黒くなってきている部分も見受けられます。以上が竹浦小学校の現況の写真の説明になります。

○議長（山本浩平君） ただ今担当課のほうから随時説明がございました。この件について特に聞いておきたいことがございます方はどうぞ。

13 番、前田博之議員。

○13 番（前田博之君） 細々な説明がありましたが、大きな考え方によって細かい質問が左右されますのでちょっと教育長にお伺いしますが、前段で企画の担当の課長のほうから施設の検討の経過について説明がありました。跡地利用も含めていろいろ検討したが転用が困難だから竹浦中学校を竹浦小学校にしたいのだということになりました。本来でいけば、子供たちの学習環境あるいは学校教育施設、そういうものを優先的に配慮して現在の校舎、竹浦中学校の校舎いずれかを選択すべきかと。そういうことで、どちらが子供たちのために教育環境、教育施設が恵まれているのかという判断に立って竹浦中学校と決めるのが本来の筋だったと思うのだが、今の説明でいくと逆に別な転用を考えたあげくにだめだから竹浦中学校ってこういう言い方なのだけれども、教育長に伺いたいのは原則的に今も説明受けていますが竹浦小学校が竹浦中学校に移転すると、その今言った教育環境、施設環境これはどっちがどういう形で判断して竹浦中学校に決めたのかお聞きしたいと思います。ここで竹浦小学校をどうのこうのという話をしたって、今説明を受けて竹浦中学校に行こうとするのであれば、前向きな考え方の中で環境整備しなければならないと思うのだけれどその辺を伺っておきたいと思います。

○議長（山本浩平君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 竹浦小学校は耐震計画に基づいて 28 年には耐震改修というようなことでの計画は持っておりました。そういう中で今前田議員のほうからありました教育環境の部分でさてどうなのかというようなことがあります。私も学校環境、全て校舎の中それから校舎外の環境を含めまして見たとき、やはり校舎の内部的な部分については、今説明もありましたが十分な子供たちの教育環境としてのスペースも含めまして狭隘化だとか照度の問題があつてなかなか厳しい状況だなというようなことは意識しております。ただ、これまでに大変長い歴史をかけて校舎外のところの整備は、地域を含めて非常に子供たちが外遊びできるような状況をつくり出してくれております。そういう意味では確かにいい面ともしっかりと改善しなければならない部分というのはあるかと思っております。ただ、安全性からいったら耐震等改修をかければ安全性は保証できますけれど、今の時点ではかな

り安全性を含めて問題があろうというような認識に立っております。竹浦中学校のほうは、半分は新しい西棟のほうについては今図面がありますが音楽室だとか1階のコンピュータ室のほうだとか玄関から半分は新しい建築になっております。今出た狭隘の部分だとか照度の面だとかそういうことからいえば、竹浦小学校に比べてはよからうと。ただ、小学校と中学校の子供たちの教育活動の中で見たとき、外の環境整備といいますか、敷地は竹浦中学校のほうがずっと大きいのですけれど、遊具それから教具として使う鉄棒等だとかの施設を含めて改修をしていかなければならない。そういうような問題はあろうと押えています。そういうことを比べた時に、さて校舎問題そのもの、それから子供たちの通学の距離等々、それから安全性等を鑑みたときに通学距離が大幅に伸びるということは大きな理由にはならないというように思っております。それから外回りの改修を一定限すれば、先ほど言った外での教育活動は竹浦中学校のほうでも十分できるだろうというように押えています。そういう中で跡地利用を検討していた時に確かに活用の流れがどうしても詰まっているというものも正直なところあった中で、移転改修を図ったほうが早急に子供たちの安全性や教育環境を保持していくためにはよろしいのではないかなというような結論を出して、今ご提示をさせていただいております。以上です。

○議長（山本浩平君） 13番、前田博之議員。

○13番（前田博之君） 今教育長があった話が先に優先して議論されるのが筋だと思います。私はこの検討をされたのは本末転倒かなと思います。細かいことあるかと思いますが竹浦小学校のほうは別として、今教育長から周辺整備で（2）で遊具や駐車場の確保これをやるとしたら別紙のほうで予算が載っていませんけれど幾らぐらい見込んでいるのかということと、もう一つは解体の費用です。これから28年以降白老小学校も出ますけど、この解体にかかる学校の施設の年次計画なりをどういう形で工程を組んでいるのか。今教育長から少し話がありましたが竹浦小学校が竹浦中学校に移転することによる地区の住民説明会というのは、そういうものについて行われて了解を取ったうえでここに上がってきているのか。これから説明されるのか。その辺だけお聞きしておきます。

○議長（山本浩平君） 高尾教育課長。

○教育課長（高尾利弘君） 私のほうから予算関係について説明をします。今回の表に載せてなくて申しわけなかったのですが、遊具の部分でございますが積算で最大限ですが、滑り台と砂場整備、4連ブランコ、3連中鉄棒とはんとう棒、ストレートラダー、ジャングルジムとシーソー、ちょっとマックスになると思うのですが消費税含めまして313万円ぐらいということで試算しております。駐車場の環境整備については、自分たちでできる部分もあると思いますので特に金額的には試算はしておりません。あともう1つ解体の部分の年次計画なのですが、正直言いまして今のところいつ竹浦小学校を解体するということにはなっておりません。本日に地域のほうで説明会を夕方6時半から行うのですが、そちらの中で地域の人たちに今この解体ということを出したとき、どういう部分になるかとか、どういう意見が出るかということも含めまして、こちらについては予算との関係もございまして解体費については今のところ年次計画としては持っていないということでございます。

住民説明会はきょうの6時半から竹浦地区、案内は保護者の方全員と竹浦地区の町内会に全戸配

布という形で案内しております。

○議長（山本浩平君） 13番、前田博之議員。

○13番（前田博之君） これで最後にします。竹浦小学校の屋内体育館は使いますということで防水改修計画が285万2,000円、26年度となっておりますが、これは予算措置がされているのか。補正するという意味なのか財源確保です。それといつも議会の中で議論されてきたことですが、別紙2の竹浦小学校の移転しない場合の交付税の措置というのが入っているのですが、これ実質負担額とありますが実質という言葉はわかりますね。交付税措置というのはルール算定上の額でしょう。こういう記載の仕方はしないと担当の財政課長も言っているのです。なぜこのような特定財源的なものの方でしてしまうのかと思うのです。竹浦中学校に行けば竹浦小学校の分関係がないけれど、そういう部分で統一して出さないとまた特定財源みたいになってしまって誤解されるのです。そういう部分は前回も議会のほうにもそういう方向性を示しているのだから、細かいことだけでもそういうことは整理しておく必要は私あると思いますが、その2点だけです。

○議長（山本浩平君） 高尾教育課長。

○教育課長（高尾利弘君） 屋上防水の26年度ということですが、26年度に入っている全部の数字は今後これで話の方向性が皆さんに了承というかある程度決まった時点で9月に補正予算として上げていきたいということで考えております。それと交付税なのですが私も財政をやっていたこともありまして、ちょっと考え方なのですが財政課長とも違う部分もあるのですが事業費補正ということで、この起債を借りなければその分のお金というのは入ってこないお金なのです。まずちょっと議論はここにはあるのですけれど、差額を出すということで交付税措置がある起債と交付税措置がない起債を竹浦小学校と竹浦中学校で使っていましたので資料としてはあったほうがいいのかということで、載せさせてもらいました。今後その部分では注意したいと思います。

○議長（山本浩平君） 11番、山田和子議員。

○11番（山田和子君） 11番、山田です。竹浦小学校の老朽化の具合については大変詳しいご説明をいただきましたので十分に理解できました。早急に子供たちの教育環境の改善をしなければならないということは共通の認識ができたと思います。ただですね、平成33年の将来推計人口において、竹浦の児童数は44人になって学級数も4学級になるのです。ということは複式も2クラスできているという状況だと思うのです。そこも十分に教育委員会としても把握されていると思うのですけれど、その中で統合も視野に入れた移転ということを教育委員会のほうでは検討されてきたのかどうか。その議論の過程が統合に関してどのようなものがあったのかお聞かせください。

○議長（山本浩平君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） その点につきましては十分議論してきました。確かに昨年度出しました配置計画に基づいて今後も小学校の適正配置については進めていきたいということで押さえております。ただども状況としては、校舎は不便をかけながらも持ち続けたとしても、今のこの環境を先ほど出たような音楽室の確保というのはかなり厳しい状況ではないかと。そういうようなことになると今度結局は校舎本体のところに音楽室を持ち切れるかということ、そのスペースというのはないのです。そういうことも含め、それから子供の安全性、環境の問題等々を含めたとき、やはり今竹

浦中学校の校舎をそのまま跡地利用がなかなか難しいというような中で、その活用を図ったほうがいいのではないかなというようなことできょうのご提案をさせていただいております。統合については今後社台小学校と同じような状況が出てくる可能性は十分にありますので、その時点で保護者、地域に統合の問題も含めてご説明をしていきたいと思っております。

○議長（山本浩平君） 11 番、山田和子議員。

○11 番（山田和子君） この改修費と公債費の表を見ても、もし旧竹浦中学校を改修してそこに移転した場合でも平成 38 年度まで借金を払い続けます。でも平成 33 年にはもしかすると統合をする可能性のほうが大ですよ。ということは子供たちがいなくなっている竹浦中学校の旧跡地にまたその借金を返済し続ける年数が何年かあるという感覚になるのですけども、そこはそういう感覚でよろしいですか。

○議長（山本浩平君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） その改修にかかる財政的な金額で言えば、いずれにしろ今後、校舎をどのようにして跡地利用していくかということはこれからずっとまた考えていかなければならないことでもあります。そういう中であのままの状態でも竹浦中学校の跡地利用を考えられるかと。そうではなくて一定限度の改修をかけて、そして耐震性を図った事実をもって活用を検討していったほうがよりメリットのある募集といいますか、公募を含めてできてくるのではないかなというような押さへは私自身の中では持っておりますので、確かに改修、耐震改修費用は統合がなった時点でも払わなければならないというような事実はありますけれども、そんなことも将来的なことを含めて考えて押さえております。

○議長（山本浩平君） 11 番、山田和子議員。

○11 番（山田和子君） 11 番、山田です。階段の歩幅ですとか高さとか改修したものがどこかに転売できるということを視野に入れているということなのか。転売でなくて売れるか。利活用できるかという予想をされているということでしょうか。

○議長（山本浩平君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） それは、やはりそのままの状態であの地区に置いておくということはきつとできないだろうと思いますし、コミュニティ地区計画づくりの中も含めて、その利用については検討を図っていかなければならないと思っております。

○議長（山本浩平君） 11 番、山田和子議員。

○11 番（山田和子君） 11 番、山田です。今資料を持っていらっしゃらないかもしれませんが、学校開放で竹浦中学校の体育館及び竹浦小学校の体育館はどのくらいの方に利用されているかという資料がありましたら後でいただければと思うのですけれども。

○議長（山本浩平君） 高尾教育課長

○教育課長（高尾利弘君） それも今持っていませんので、ただ今は竹浦小学校だけですけれども非常に頻度は高いということで活発に体育館のほうが使われているという状況がございます。資料については後で出したいと思えます。

○議長（山本浩平君） 9 番、吉谷一孝議員。

○9番（吉谷一孝君） 9番、吉谷です。まずいろいろお話を伺って小学校の状況も理解できたのですが、そもそも論なのですが中学校の統合のときにこの小学校の老朽化というのはもうその時点では認識されていたはずですよ。きのう、きょうこういう状況になったというような認識はなかったと思うはずです。であるならば竹浦中学校に移転するという考え方はその当時はなかったのか。そこに至らなかった経緯です。要は僕今いろいろ答弁を聞いていて物事が断片過ぎるのです。統合した後に跡地利用をどうするか、いろいろ検討した結果利用することができなかった。であるならば今度小学校を中学校に移転するという。こう時系列でみても余りにも1つ1つのことがつがながつてきていない。ましてや今同僚議員から質問があったように竹浦小学校も33年度にはそういった統合というようなことも視野に入ってくるということを総合的に見て、今回のこの説明に至っていないようなす気がするのですけれど、その辺の見解についてお伺いしたいと思います。

○議長（山本浩平君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 捉え方の面でもそういうふうな見方というのは確かにできるかなというように思っております。ただ中学校の統合の時点につきましては、統合の後の跡地利用について、いろいろな方法があるのではないかなというような前提に立って進めておりましたので、それから耐震計画を含めて委員会としては計画を持っておりましたので、その計画にのっとって進めていかなければならないというようなことは一定限持っておりました。将来的な統合のところが、数字的には去年出した適正配置計画に基づけばそういう年度の中で出てくる要素だというようなことは十分に捉えておりました。そこで、条件としてはそのような提示をしたとしても統合の事につきましてはさまざまな捉え方が保護者、地域との関係もありますので、その時点でそうなったから教育委員会の条件において直ぐに統合が成り立つかというようなことも含めたらこれはなかなか難しい部分もあるのではないかなというような押さえの中で、今回まずは子供たちの安全性を確保するそういうところで、それから金額的な問題を含めて竹浦小学校そのものに耐震改修をかけるよりは、今ある竹浦中学校のほうにかけたほうがより金額的には低く抑えられるというようなことでご提示しております。

○議長（山本浩平君） 2番、吉田和子議員。

○2番（吉田和子君） 2番、吉田です。ちょっと何点かこれどうなっているのかなということを知りたいと思います。スライドで見せていただきました。学校というのは子供にとって安心安全な場所であるはずなのに、私たち何回も行って見せていただいていたのですが、そこまで細かいところまで見ていませんでしたので大変厳しい中で勉強をしていたのだなということを実感いたしました。そういった中で私も竹浦小学校につきましては耐震度も耐震化工事も含めてずっと質問してきて統廃合があるという前提の中で、統廃合することで耐震に着手しないものだというように考えていました。それは将来的にはあるということで、先ほどからお話を伺っていると今は竹浦中学校のほうを今後また継続して違った形で使っていけることで、今は1回小学校になるということ。先ほども質問あり確認をしたいのですが、小学校仕様につくり直したことで、今後の統廃合した後の使い道に支障はないのかなということが1点ちょっと気になったことです。それともう1点、旧竹浦中学校の耐震の関係なのですが耐震改修実施計画それから耐震改修の金額は出ています

けれども、耐震診断は屋内体育館については上に載っている校舎のほうの 633 万 9,000 円の中に屋内体育館も含まれているのかどうなのかそれをちょっとお伺いしたいと思います。耐震診断をしていないで実施計画、改修は出てこないのではないかとこの辺ちょっと確認をしたいというように思います。それともう 1 つは、この耐震改修で診断は入っていませんが改修で 2,477 万 2,000 円かかるとなっていますが、国庫支出金の中で耐震改修 2,089 万 5,000 円が出るようになっています。それと 26 年度は 1,689 万 3,000 円ですから、これらの耐震診断、耐震改修に関してはどれくらいの割合で国庫支出金が支出されるようになるのかその点を伺いたいと思います。

○議長（山本浩平君） 高尾教育課長。

○教育課長（高尾利弘君） まずは小学校仕様にしたことだという事だったのですが、実は先ほど山田議員からご質問がありましたが、階段の歩幅を短くする工事は当初予定していたのですが、現在、設置基準が変わりまして手すりとかの対応で変えなくてもよろしいということの基準に変更になっておりますので、今のところ変えない見込みで金額をはじいております。それと中学校の部分の平成 26 年度の耐震診断の積算のところで、先ほどちょっと説明が足りなかったのですがこちら屋内体育館も含んでの 633 万 9,000 円ということでございます。申しわけございません。もう一つは国庫支出金です。26 年度の 1,689 万 3,000 円につきましては、竹浦小学校もそうなのですが今の元気交付金ということの対応で考えております。それと、平成 28 年度につきましては、事業費の 3 分の 1 が国庫支出金ということで押えています。

○議長（山本浩平君） 2 番、吉田和子議員。

○2 番（吉田和子君） 含まれているということでわかりました。竹浦小学校はもう廃校にしていくということになりますので、ただ教育委員会で学校の耐震化の計画を持っているのです。竹浦小学校の耐震の金額とかなり差があるのだと見ていました。どういう計算でこの耐震化計画とちょっと違うのは何なのか。単純にこういうことで金額違いますということで結構です。それから竹浦中学校は用途廃止ということで一切耐震に対しては経費が載っておりませんでしたので、これは新たな今後の耐震診断によって費用がこのように計上されるということで、診断をしないうちに実施計画それから耐震改修の工事費というものはわかるものなのですか。その辺をちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（山本浩平君） 高尾教育課長。

○教育課長（高尾利弘君） ちょっと前の耐震化の数字は持ってきていないのですが、今回竹浦小学校の部分で言いますと、耐震改修が備考欄に書いていますが改修のみですと 851 万円ぐらい骨組みだけということになるのですが、もちろん大規模改修で今回ちょっと竹浦小学校をそのまま使うという場合ですと、それだけの環境改善をもっとよくしてあげたいという部分もございまして、大規模改修でちょっと屋根壁等全てを改修するといったこととございますので、ちょっと今どっちが高くてというのがわからず申しわけないのですが、そういうような内容になっております。

○議長（山本浩平君） 小山内社会教育主査。

○教育課社会教育主査（小山内淳君） 竹浦中学校の改修費用の考え方なのですが今現在、緑丘小

学校の校舎の改修とか、あと白老中学校の屋内体育館の耐震改修とかもやっておりますので、それを参考に算出しております。実際には耐震診断をしておりませんので、もしかしたら耐震性があるかも知れないですので、その辺は本当に大まかな金額となっております。

○議長（山本浩平君） 吉田議員、よろしいですか。

10番、小西秀延議員。

○10番（小西秀延君） 私もちよっと先ほど同僚議員から出ていた公債費の償還期間で、平成38年度まで続くということでこの計画が出された町の案によりますと統合については小学校の適正配置計画に基づいて行うということになっておりますので、それでいうと先ほど竹浦では小学生の人数が33年には44人になって4学級になるような形になってしまうということなのですが、これ適正計画で考えますと、平成28年度には虎杖浜は4クラスになってしまうのです。これ来年、再来年にはもうある程度考えていかななくてはならなくなる状況になってくるのかなと時期的には推察してしまっているのですが、その辺の議論はどのような形でなっているのかちよっとお聞かせ願えればなというように思います。

○議長（山本浩平君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 確かに数字的にはその年度で少なくなってくるというか、複式学級が多くなる部分はあるのです。また次の年というか複式学級が解消されるという状況もまた出てくるのです。そこのあたりが、単純に昨年度に説明していった一つのめどとして複式学級が複数化をというように出たところの見方をどういうようにして判断をしていくかというのは、例えば28年にそういうように出たからすぐに統合だよというようなことで提示をするのか。まずはお話をこういうふうなことでさせていただいて、地域それから保護者の皆さんのご意見をもとにしながら、また今後のそのあとの状況を見ながら進めていかなければならないだろうと思っております。社台の場合については何年も複式学級の条件が続いてきたということがありますので、今回の統合に関しては提示をしておいておりますけれど、そこら辺のところはちよっと子供の数の変動がありますので状況を見て進めていきたいと思っております。ただ条件としては、昨年度の配置計画にのっとったことはご提示をしようと思っております。

○議長（山本浩平君） ほかがございませんか。

5番、松田謙吾議員。

○5番（松田謙吾君） 松田です。先ほどこの竹浦小学校の校舎の現状というご説明がありました。私は聞くに聞かれない言葉ばかり出てきました。余りにもすご過ぎるとか、ガラスが割れているとか、ロープを張っているとか、もうこのような言葉ばかりです。途中でやめると言うつもりだったのだけれども最後まで聞きました。これが白老の学校の安全教育、安全環境の方針なのかということです。私はもう本当に穴があいたら入りたいくらいの気持ちだったのです。議会もそういうところを大きく指摘してこなかった面もあります。議会の責任もあると思います。しかしながら先ほどのような劣悪な環境の中で子供たちをずっと世に送り出してきたわけなのです。私はこれが白老の学校教育の学校環境の方針だということを改めて考えると本当に寂しい話だと思いました。これを町の皆さんの前に本当に聞かせたら、町民からどんな言葉が出るのか。それから、竹浦の保護者の

方々がどんな思いで子供たちを竹浦小学校に誇りを持って通学させていたのかと思うと、私は本当に心が痛みました。もちろん中学校の跡地利用のために移転は環境がよければ大賛成です。お金係ることの問題もこれは問題外なのです。公債費もなにもかも係るのは当たり前なのです。このようなことで目をつぶってきた教育方針このことを教育長は町民にどのように説明するのですか。それから卒業した子供たちにどのような言葉を出せますか。きょうの新聞に出ていたけれど、白老の子供の出生率は管内で最低です。確か 1.27 だったかな、北海道全体では 2.5 か数は新聞を見ればわかるのだけれどもこんなことがやっぱりあるのです。ですからそのようなことも含めて学校環境をきちっとしなかったら、子供のいる方々は竹浦に皆住まなくなります。ついだから言うておきますがこの統合問題だって思い切って中学校を直すのがいいのか、統合問題を先倒ししたほうがいいのかこの辺だって十分に考えるべきではないかと先ほどから思っていましたよ。どうですかその辺の考え方を伺います。

○議長（山本浩平君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 今のご指摘にありましたことについては、十分にこれまでの教育行政の中で決して見逃してきたということでは私はないと思っていますし、私自身もそういう思いで教育行政を進めてきた思いはあります。まずは現実として先ほどお見せした校舎の状況というのは、ご指摘されるようなことであることは押さえながら、その環境をどういうようにして現時点において、また改めて進めていくのかというようなことで、きょうご提示をさせていただいております。十分に子供たち含め保護者、それから地域の皆さん方につきましては、この状況についてしっかりと直視していただいて、それからこの環境をどうすべきかというふうなことでご検討いただきたいなというように思っています。もう一つは、今の状況からいけばもっと昨年度の適正配置計画の前倒しによる全体的な統合というようなことを考えなかったのかということなのですが、昨年度に各地域にご説明に入ったときは、やはり保護者、地域も含めてなかなか中学校の統合の後直ぐ小学校の統合ができるかというようなことについては、残してほしいという思いが非常に強く出ておりましたし、それからまだ委員会として提示した適正配置計画の条件には達していないというようなことで、今回についてはその統合というようなことはまずは押さえて先に安全性の確保というようなことで提示させていただいております。以上です。

○議長（山本浩平君） 5 番、松田謙吾議員。

○5 番（松田謙吾君） 私は今の白老の学校施設の安全性、それから教育環境とかこういうことを考えるときに、必ずしも古い学校がだめでもないし新しい学校がいいでもない。要は自分の家庭をみたとしてもガラスが割れたら直すし、それから壁が落ちたら直す、土台が崩れたら直すこんなことは当たり前の話です。竹浦小学校は全部放置してきたのです。今となってから、あれが放置したこれが放置したと、先ほどの説明はきっちりやり過ぎたのです。その説明を聞いたとして何の意味があるのです。ですから私は今後の学校施設の安全性というは、やはり壊れたら直していく、手をかけていくということが原点だと思うのです。放置して放置して大工が責任を持ってなくなるまで放置しておいてから直そうとしてもこれは無理なのです。ですからこれからは、やはりかかるものはかかる。直すものは直すというように学校教育環境をきちっとやってもらいたいと思うものだ

から、私はこういうことを述べたのです。そんなことで、今後はやはりそういうことをきちっと教育長が先頭に立ってやってほしいなとお願いをしておきますよ。

○議長（山本浩平君） 古俣教育長。

○教育長（古俣博之君） 今松田議員のほうからご指摘をいただきましたこと十分に肝に銘じて今後の教育行政に邁進したいと思っています。ただ1つ私の立場からお話を申し上げておきたいのは、決してうちの職員がそれを見て放置してきたということではありませんので、常に学校安全点検については時期を見て、それから何とか業者に頼まれない部分については、自ら職員が出かけて行って直し、草刈等も含めてやっていることをお話し申し上げておきたいと思います。議員から言われたことについては、重々肝に銘じて今後頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（山本浩平君） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○議長（山本浩平君） これで竹浦小学校の老朽化等に伴う移転の説明を終了いたします。

以上で本日の全員協議会を閉会いたします。

（午前11時22分）